

第23回市民講座 開催します！

テーマ

最期まで自分らしく生きるために
～医療と介護で叶える暮らし～

講師

西東京市在宅療養連携支援センター にしのわ
看護師 古澤 香織

日時

2019年1月26日(土) 14:30～16:00 ※開場 14:00

場所

田無病院 外来棟 1階

電話

042-461-7225 または 042-461-5385
医療福祉連携部



2月18日病院・在宅研修のご案内

平成31年2月18日第1回西東京市病院・在宅研修が田無病院で開催されます。この研修は西東京市地域包括ケアシステム推進協議会連携のしくみづくり部会が企画をしたものです。医療・介護・福祉が一体となって地域と市民を支える、そこに『病院』の理解と協力が必要との考えから、第1回目の研修を当院が実施することとなりました。

当院の医師、看護師、リハビリスタッフ、MSWが在宅の専門職種の業務に1日同行し在宅の現場を見学させていただきました。その学びを2月18日に報告させていただきます。田無病院として、地域貢献を目標に今後も精進していきますので、みなさま宜しく願いいたします。



医療法人財団緑秀会 広報紙

グリーンレター
～Green Letter～

老いても足で歩くまち 老いても口から食べるまち 西東京 田無病院

Jan
2019
新春号
Vol.39

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。
日頃より田無病院や関連施設へのご理解とご協力をいただき、心よりお礼を申し上げます。今後も地域密着・地域貢献をメインテーマに、地域のみなさまが安心して生活できるよう、より充実した医療と介護の提供に努めてまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。



さて、ここからは職員のみなさまに向け発信させていただきます。
平成30年はわれわれ緑秀会にとって、大きな変革をもたらす転換期となりました。法人の業績につきましては、みなさまの努力もあって良い方向に向かいつつありますがまだまだ油断はできません。考えてみれば、私自身も経営が安定していた頃が忘れられず、どこかで楽観的であったと思います。昔と今では様々な条件が違い単純に比較はできませんが、経営陣はもちろんのこと、ドクターから看護、介護、コメディカル等々、全職種の職員がもう一息頑張ればさらにより良い方向に向かっていけると思います。私は持病で複数の医療機関にかかっていますが、ピンからキリまで程度に差があります。公平に見て、当法人はピンに近い質を持っていると思います。その事を周りに知ってもらおう努力をし、より良い方向を目指そうではありませんか！みなさまの協力を切にお願いする次第です。

この新しい年がより良き年になるよう心からお祈りしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

理事長 宮田 浩

医療法人財団 緑秀会



田無病院
〒188-0002
東京都西東京市緑町 3-6-1
TEL. 042-461-2682

介護老人保健施設
エバグリーン田無
TEL. 042-461-7200

田無訪問看護ステーション
TEL. 042-461-7722

田無居宅介護支援事業所
TEL. 042-461-7981

緑町地域包括支援センター（西東京市委託事業）
TEL. 042-461-7081

西東京市在宅療養連携支援センター
にしのわ
〒202-8555
東京都西東京市中町 1-5-1
（西東京市保谷保健福祉総合センター1階）
TEL. 042-464-1311（市役所代表）内線：2831
TEL. 042-438-4122（直通）



グループホーム
みどりの樹
TEL. 042-439-9315

小規模多機能型居宅介護
みどりの樹
〒202-0012
東京都西東京市東町 2-2-6
TEL. 042-439-9311



社会福祉法人 緑秀会



グリーンロードヘルパーステーション
TEL. 042-461-2634

サービス付き高齢者向け住宅
みどりの樹 清瀬
〒204-0011
東京都清瀬市清戸 709-17
TEL. 042-494-6161

特別養護老人ホーム
グリーンロード
〒188-0004
東京都西東京市西原町 2-2-11
TEL. 042-467-7736

田無病院 基本理念と基本方針

基本理念

「楽しく生き、幸せに死ねる」地域医療と介護を目指します。
老いても足であるまち
老いても口から食べるまち 西東京
You can walk, you can eat, forever! West-Tokyo City

基本方針

- ① 急性期、慢性期、在宅を繋ぐ医療を提供します。
- ② 地域医療と介護の融合を目指します。
- ③ 患者さまとその家族の立場に立った医療と介護を提供します。
- ④ 職員が健康で楽しく働ける職場を目指します。

TOPIC 「北多摩北部栄養検討部会」発足

北多摩北部医療圏病病連携会議の下部組織として、北多摩北部栄養検討部会が設立され、第1回の会合が30年10月26日に公立昭和病院で開かれました。この部会は①地域での介護食、嚥下調整食の名称の標準化、②栄養に関する地域連携ツールの改善と普及、③地域でのサルコペニア・フレイル予防の活動、④地域へのスムーズな新誤接続防止コネクタ導入、⑤多職種間の連携、などを目的としています。わたくしが部会長を務め、事務局は栄養科の工藤科長です。第1回の会合では、日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニックの菊谷先生に嚥下調整食などに関する講演をお願いしました。今後、西東京市を含めた北北医療圏で、この部会の活動が開始されますので、よろしくお願いします。



田無病院
豆知識

お花

みなさま、田無病院の外来にお花が活けられているのはご存知ですか？
通院中の患者様や入院中の患者様にもとても好評で、変わる度に患者様が足を止めて鑑賞されているところをよく見かけます。
実はあのお花を活けているのは病棟の看護師なのです。

病院に絵画やお花があると心が癒されますよね。
今後もどのようなお花が活けられるのか楽しみです。



「多職種協働による食支援プロジェクト」

～西東京市がモデル地区に～

地域包括ケアシステムの一環として、各地域における食支援ネットワーク構築に向けての事業「多職種共食支援ネットワーク構築に向けての事業「多職種共同による食支援プロジェクト」(プロジェクト責任者: 東京大学高齢社会総研究機構・飯島勝矢教授)が平成29年度から進められています。

高齢者が自分らしい生活を送るためには、自宅で生活しながらも食を軸とした栄養管理やそれに対する安定的な食支援を受けられる体制が重要です。各地域でしっかりと食支援を実現させるためには、食に直接関わる管理栄養士だけでなく、医師、歯科医師、看護師、介護スタッフ、リハビリやケアマネージャーなど各専門職が一丸となって連携する必要があります。さらに、どの地域に行っても、比較的安定した食支援が各地域で展開されるべきです。



(左から) 飯島勝矢教授、高瀬さん(教育研究担当)

しかし、現状では職種間の情報共有や協力体制がまだ不十分であり、食支援活動は地域差、個人の熱意、専門職能のスキルに強く依存していて、地域における十分な食支援が実現されていないことが、このプロジェクトの背景としてあります。

本プロジェクトは地域高齢者の食を底支えるために、2つのモデル地区にて多職種協働の食支援体制を確立し、そのノウハウを日本全国に広げるべく、前駆的な例として発信する。そして、食支援介入前後の高齢者の変化を科学的に追跡し、支援体制の構築に資することを目的としています。

最初のモデル地域として西東京市と東村山市の2市が挙げられ、ワーキンググループメンバーとして、田無病院から丸山院長、栄養科の工藤、田中が参加しています。



プロジェクト2年目の平成30年度は、モデル地域において、①多職種共同で行う食支援の連携パスを構築する。②連携を行うための課題を抽出する、ことを目標に作業を行っています。現在、西東京市での食支援方法の試案として

市内の一部の通所施設で食に関するスクリーニングを実施していただき、当院の通所リハビリにもご協力いただきました。

本プロジェクトの特徴は、「提案を受けた支援の実施ではなく、地域の専門職能団体が考案する地域発の支援体制を目指す」ところにあります。また、手探り状態ではありますが、西東京市モデルの成果を共有し、将来的にそのノウハウが全国展開に寄与できるように西東京市全体で動き出そうとしているところです。

皆様からの忌憚なきご意見をお願いします。

